

研究助成先15人選定

矢崎科学技術 振興記念財団 贈呈式を開催

矢崎科学技術振興記念財団（東京都港区、細川興一理事長、03・5501・9831）は7日、2018

年度の研究助成対象に、「二酸化炭素変換反応に活性な複合クラスタ―触媒の創製」を

テーマに研究する山添誠司首都大学東京大学院理学研究科化学専攻教授（写真中央）ら15人を選定した。同日、贈呈式を開いた。

助成金は「新材料」「エネルギー」「情報」の分野の研究者に



贈呈する。一般研究助成の対象となった山添教授ら6人には200万円を、若手研究者を対象とする奨励研究助成の9人には100万円を助成する。

財団指定のテーマ「未来の暮らしに夢を与える革新的な技術に関する研究」に沿った研究が対象の「特定研究助成（助成金1000万円）」には「FPGAを活用したエッジコンピューティングIoTの開発による次世代ネットワークシステムの研究」を

研究する伊藤智義千葉大学大学院工学研究院教授が選ばれた。

同財団は矢崎総業グループの創業40周年記念事業として82年に設立した。助成は83年に始まり、今回で36回目となった。